

いつまでもお元気で！ 市内最高齢者を市長が訪問

9月20日(木)、野田侃生市長が市内の男女それぞれの最高齢者を訪問し、長寿を祝い記念品を贈りました。

市内の最高齢者は、安岐町下原の松矢美代さん(106歳)、男性の最高齢者は、国見町伊美の堤二知郎さん(102歳)です。

松矢さんは、明治34年8月生まれの106歳。子どもさんとお孫さん夫婦の家族との6人暮らしで、106歳を迎えた現在でも、食事やトイレ等身の回りのことは一人でできるそうで、趣味の和歌を詠んだり、筆で手紙を書いたりしています。

堤さんは、明治37年12月生まれの102歳。現在は、姫見苑(特別養護老人ホーム)に入苑されて



▲市内最高齢の松矢美代さん



▲男性最高齢の堤二知郎さん

おり、趣味の詩吟を楽しまれています。

市内には、9月1日現在で100歳を超えた方が24名(男性8名・女性16名)、今年100歳を迎える方が8名いらっしゃいます(男性3名・女性5名)。

「高齢者のよい歯のコンクール」で坂本春男さんが特別賞を受賞

80歳以上で自分の歯を20本以上保持している人を対象とした「第15回高齢者のよい歯のコンクール」で、参加者の中で最高齢だった国東町川原の坂本春男さん(93)が特別賞(大分県知事賞)を受賞し、9月12日(水)、国東保健所で表彰式が行われました。

表彰式では、中里興文県健康対策課長が「歯は健康の源です。これからも歯を大切に、いつまでも健やかで県民の模範となってください。」とあいさつし、賞状と盾を贈りました。

坂本さんに歯の健康を保つ秘訣について何うと

「常に歯をきれいにすること。少しでも歯の調子が悪いときは、すぐに治療することが大切。」と答えてくれました。



▲「110歳までは生きると決めている。これからもしっかりと歯を磨きます。」と自慢の歯を見せ、受賞を喜ぶ坂本さん

くにさきロータリークラブが松寿園に車いすを寄贈

くにさきロータリークラブ(木戸瑩一郎会長)から、市養護老人ホーム松寿園に車いす2台が寄贈されました。

9月26日(水)に松寿園で行われた贈呈式には、木戸会長ほか同クラブの会員、国際ロータリークラブ第2720地区の杉谷卓紀ガバナーが出席。木戸会長から高木正史副市長に贈呈されました。高木副市長が「大切にに使わせていただきます。ありがとうございました。」とお礼を述べました。



▲(左から)お礼を述べる高木副市長、杉谷ガバナー、木戸会長

